

令和2年（2020）2月27日・2月28日

令和元年度（2019）

第5回出雲市議会(定例会)
一般質問通告一覧表

令和元年度（2019）第5回出雲市議会（定例会）
一般質問通告一覧表 目次

2月27日（木） 10:00 開会			2月28日（金） 10:00 開会		
順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ
1	飯塚 俊之	3	1	大場 利信	11 ～ 12
2	後藤 由美	4 ～ 5	2	西村 亮	13
3	川光 秀昭	6	3	寺本 淳一	14
4	錦織 稔	7	4	福代 秀洋	15
5	山内 英司	8	5	児玉 俊雄	16
6	湯浅 啓史	9	6	板倉 一郎	17
7	神門 至	10	7	玉木 満	18

質問者	21 飯塚俊之
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市社会教育計画について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 出雲市社会教育計画策定の目的及び計画内容 ② 市長部局で補助執行されている社会教育・生涯学習部門の現状及び課題 ③ 「学校を核とした地域づくり」「地域とともにある学校づくり」の推進策 	

質問者	4 後藤由美
質問事項・質問内容	
(1) 市長の政治姿勢について	
<p>① 国は昨年10月から消費税10%増税を強行し、暮らしと経済に深刻な影響を与えています。家計消費は過去最低水準になりました。重大なのは「社会保障のため」といって消費税を増税しながら、「全世代型社会保障」と称して医療・介護・年金ともに負担増や給付減が予定されていることです。こうして、国がさらに社会保障を後退させようとしているとき、自治体は「住民の暮らし・福祉最優先」の市政がますます重要になると考えますが、市長の所見を伺います。</p> <p>② 施政方針では「よりよい子育て環境を整え、多くの子どもたちが生まれ育つことは本市の将来にとって取り組むべき大きなテーマ」とし「子育て家庭の負担軽減」に力を注ぐ、としています。しかし市は、来年度2学期から学校給食費の値上げを予定しています。本来、義務教育は無償と憲法は定めています。今こそ「国の責任で学校給食の無償化を」と国に求めるべきです。また、食材の値上げ分を保護者負担にせず、子育て世代を支援するなんらかの施策を要求します。市長の所見を伺います。</p> <p>③ 県が示した「少人数学級編制制度の見直し案」に対し、市は反対を表明し、12月市議会でも現行制度を堅持して欲しいとの意見書を県に提出しました。しかしその後、県の最終見直し案に対し「やむなく了解」をされました。学校現場の教員や、何より子どもの教育のために、最後まで反対の意思を貫いて欲しいです。所見を伺います。</p>	
(2) 国からの「公立病院再編・統合リスト公表」について	
<p>① 厚労省は昨年9月、高度急性期もしくは急性期の病床を持つ公立・公的医療機関の4分の1に当たる424病院について突然名前を公表し、ベッド数や診療機能の縮小なども含む再編・統合など、具体的対応方針を決めるよう求めてきました。県内では4つの病院が対象となりそのうちの 하나가「市立総合医療センター」です。突然の発表に、市民からは「総合医療センターにはいつもお世話になっている。なくなっては困る」「これからどうなるのか。医療センターを守るために何かしたい」など、様々な声があがっています。</p> <p>そこで伺います。</p> <p>ア 市民の命と健康を守り、市民から愛されている「総合医療センター」はなくてはならない大切な公立病院です。しかし、国は地域の実情や病院の日頃の努力など全く無視し、機械的な枠にはめ、乱暴に病院名を公表しました。厚労省のやり方はあまりにもひどいものと考えます。今回の公表をどう受け止めているのか、所見を伺います。</p> <p>イ 病院を守るために、市として病院名リストの撤回を国に求める時です。所見を伺います。</p>	
(3) 市民のスポーツ振興推進について	

① 市は2017年に「出雲市スポーツ推進計画」を策定しています。冒頭の市長あいさつには「スポーツは体力向上や健康増進に資するだけでなく、人や地域の交流を促進し、地域の一体感の醸成や活性化をはかるものとしての役割も担う」と、スポーツの意義が表明されています。

昨年11月、出雲体育館、平田体育館、斐川第2体育館の3つの体育館を廃止するにあたっての対応方針を定めた計画「出雲市体育施設個別施設計画」が作成されました。そこで伺います。

ア 誰もがスポーツを楽しむ条件を整えることは重要で、なかでも公共スポーツ施設である体育館は必要不可欠なものです。しかし、市は現在の3つの体育館を新体育館の供用開始後廃止することとしています。廃止される地域の市民からは「身近な体育館がなくなったら困る」「新しい所にはいけない」など、様々な不安の声があがっています。体育館は市民の身近な所にあり、気軽に使えることが重要です。この市民の声にこたえ、3つの体育館は存続させるべきではないでしょうか。所見を伺います。

質問者	5 川 光 秀 昭
質問事項・質問内容	
(1) ゴミ出し困難者への対応の進捗について	
<p>① 平成30年12月議会で、高齢者のゴミ出し困難者の出雲市の対応について一般質問をしました。その答弁は、「出雲市第2次ごみ処理基本計画」（中間見直し）（以下、基本計画）の中で、課題として検討しているとのことでした。実際に、平成30年度末に示された基本計画の中では、「施策33 ゴミ出し困難者への対応」が新規事業として挙げてあります。 この事業の検討の内容や進捗状況について伺います。</p>	
(2) 介護事業者の倒産（廃業）について	
<p>① 1月に発表された2019年の全国「老人福祉・介護事業」倒産件数（負債1,000万円以上）（東京商工リサーチ）は、集計を始めた2000年以降の最多の111件数を記録しました。2011年には19件しかなかった倒産は右肩上がり、2016年に100件に達し、以降の4年間は100件以上の高止まりの状態を呈しています。 出雲市の介護事業者の現状について伺います。</p> <p>ア 介護事業者の廃業、倒産の現状 イ 原因の分析 ウ 対応（施策）</p>	

質問者	7 錦 織 稔
質問事項・質問内容	
(1) 新型コロナウイルス感染症対策を早急に	
<p>① 新型コロナウイルス感染症対策について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 検査・治療体制の状況 イ 軽症患者や無症状病原体保有者への対応 ウ 適切な情報提供と相談体制 エ 産業への影響把握と事業継続などの支援 オ マスク・消毒液不足への対応 カ 学校、施設等に対する対応 <p>② 農産物の生産・供給について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 農産物の流通に影響が出ているのか伺う イ 農産物の安定供給と価格変動への対応 ウ 作付け等に影響があるのか伺う 	
(2) 市民の生命を守る災害発生時等の情報共有について	
<p>① 基盤的防災情報流通ネットワーク（S I P 4 D）の情報共有について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 防災情報システムを改修する考えはないか イ 災害時に迅速に情報を収集し、リアルタイムで関係機関と情報共有するためのシステムの構築について見解を伺う ウ 災害時協定を結んでいる地域の業界団体の情報を共有するシステムの導入も有効と考えるが見解を伺う 	

質問者	3 山内英司
質問事項・質問内容	
(1) 小中学校のナイター設備について	
<p>① 小中学校のナイター設備について</p> <p>ア 現在、ナイター設備のある学校を伺う。</p> <p>イ 年間の電気料金及び支払い方法を伺う。</p> <p>ウ ナイター設置に関わる市の役割を伺う。</p>	
(2) 出雲の海応援隊について	
<p>① 出雲の海魅力発信事業の「出雲の海応援隊」について</p> <p>ア 本年度の実績、評価を伺う。</p> <p>イ 次年度の取組みを伺う。</p>	

質問者	1 1 湯 浅 啓 史
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市の人口ビジョンについて	
<p>① 昨年12月に出雲市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」・「第2期総合戦略」が示された。目標人口が様々な分析・推計された結果、2060年における目標人口は15万人台に設定された。</p> <p>ア 出生数はどのような予測か。</p> <p>イ 年齢区分は主に3区分となって分析・推計されている。老年人口は65歳以上をひとくくりにするのが一般的だが、現実的には老年人口を前期・後期と区分して視覚化した方が、様々な政策立案に資すると考える。そのような分析はされているか。</p>	
(2) 国際交流を推進する取り組みについて	
<p>① 国際交流を進め、文化、風習、社会構造などが異なる国々とのきずなを深めていくことは、地域社会にとって重要な課題だと考える。 特に、将来を担う若者が積極的に海外へ出て実地体験する事は、個人のレベルを超え、地域の将来像を変革する可能性を秘めており、積極的に取り組む必要がある。</p> <p>ア 出雲市が国際交流や研修等のために人材を海外へ派遣する事業（プログラム）はどのようなものがあるか。</p> <p>イ 出雲市が行うもの以外で、国際交流・研修等のために人材を海外へ派遣する事業（プログラム）はどのようなものがあるか。</p>	
(3) デジタルファーストを実現する体制を問う	
<p>① 今議会に示された施政方針の中で「デジタルファースト宣言」を行うとの考えを示された。施政方針に対する会派代表質問の中では市民サービスの向上、行政運営の改善、ほか多分野でデジタル技術を活用すると説明された。また、その推進には市長が先頭に立ち実施本部を設置するとの説明もあった。</p> <p>ア 特定任期付職員の任用も含め、専門知識を有する管理者の設置は検討しないのか。</p>	

質問者	1 2 神 門 至
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市合併15周年を迎えて	
<p>① 出雲市は、平成17年3月に斐川地域を除く2市4町が合併して15年を迎えます。また、この間、平成23年10月に斐川地域と再合併して8年が経過しました。</p> <p>ア この間の合併を振り返り、市長の所感について伺います</p> <p>イ また、市長3期目任期である最終年度の「一以貫之」の思いについて伺います</p>	
(2) 出雲市の将来推計人口について	
<p>① 出雲市の人口は、合併後約17万人となり、県下でも人口が微増傾向にあります。言うまでもなく、人口の増加は、地域の活性化・持続可能なまちづくりには不可欠であります。とりわけ、UIターン住民及び外国人住民の定住・永住は欠かせない課題であると同時に、地域・自治協会の役割り及び相互理解のもとでの地域づくり（ランドデザイン）は従前を増して求められている課題であると考えます。そこで、次のことについて、市の見解を伺います。</p> <p>尚、人口等の数値は、斐川地域との合併以降の数値で。また、それぞれの地域毎に答弁いただきますようお願い致します。</p> <p>ア 出雲市の人口・世帯数について</p> <p> a 人口の推移は</p> <p> b 世帯数の推移は</p> <p>イ UIターン住民・世帯数について</p> <p> a UIターン住民・世帯数の推移は</p> <p> b また、定住・永住の現状と課題は</p> <p>ウ 外国人住民・世帯数について</p> <p> a 外国人住民・世帯数の推移は</p> <p> b また、定住・永住の現状と課題は</p> <p>エ 自治会・町内会について</p> <p> a 自治会・町内会数の推移は</p> <p> b 自治会・町内会の加入世帯数の推移は</p> <p> c 自治会・町内会の加入率の推移は</p> <p> d 自治会・町内会への加入メリット・デメリットは</p> <p> e また、加入促進への対応は</p> <p>オ 自治協会について</p> <p> a 自治協会の役割は</p> <p> b 自治協会への支援は</p> <p> c また、意見反映の場は</p> <p>カ 将来推計人口について</p> <p> a 5年後は</p> <p> b 10年後は</p> <p> c 20年後は</p>	

質問者	18	大場利信
-----	----	------

質問事項・質問内容

(1) 出雲市における少人数学級見直し後の教育について

① 県の少人数学級の見直しについて、県知事及び県教育長に申入れの上、県の最終案を受け入れた旨の報告を2月18日の全員協議会で複雑な思いで聞きました。優れた制度が崩れたと複雑な思いで聞きました。本県は従来から「人づくり」に力を入れてきており、国で40人学級が制度化されたのち、全国に先駆けて国より5人少ない少人数学級に取り組み、児童生徒個々に寄り添った素晴らしい教育を実施してきました。これにより本市の児童生徒は落ち着いて伸び伸びと学ぶことができ、保護者や学校現場からも歓迎され、教育立県の名にふさわしい体制を整えて今日を迎えております。小中学校の教職員の人件費は県が支給するものでありますが、見直しの影響は本市の児童生徒および保護者、地域に及ぶものであり、今後の出雲市の子どもの教育に良くない影響が生ずることを懸念する市民の方々が多くおられます。長岡市長としてはいつまでも県といがみ合っても目途が立たず、県と市との今後を総合的に考え、結論を出されたものと思いますが、もっと時間をかけて議論すべきであったと考えます。見直しの影響や今後の教育について、以下伺います。

ア まず、本市において少人数学級制度が導入された時期およびその理由を伺います。

イ 今回の見直しによる影響（詳細）について伺います。

ウ 県は、学力、いじめの認知件数、不登校の状況との関係性を分析したところ、明確な関係は認められず、少人数学級編制の効果を評価することは困難であると言及していますが、出雲市の状況はどうであったか伺います。

エ 児童生徒の教育には、先生のきめ細かな指導と人間関係が基本であります。今回の見直しにより1学級（教室）当たりの人数が大幅に増える学級もあり、働き方改革も踏まえ、今までのようなきめ細かい指導が期待できない場合もあろうかと察します。県はこれへの対応策として「影響緩和あるいは課題解決対応のための教員の加配」を挙げていますが、教室での具体的なイメージを伺います。

オ 小学校における英語教育、プログラミング教育の導入など新しい課題に対応することになりますが、今回の見直しによる影響はどうか伺います。

カ また、1学級（教室）当たりの人数が大幅に増える学級では教室に入り切れないおそれもあると聞きますが、面積等のハード面は大丈夫か伺います。

キ 最後に、「人づくり」の観点から、家庭や地域で子どもを健全に育成するため、学校教育と社会教育との連携がますます重要となってきました。市長も施政方針で平成31年3月に作成された「社会教育計画」を着実に実行していく旨に言及されています。地域や保護者のニーズが多様化する中で重要なことと考えますが、これについて見解を伺います。

(2) 用途廃止した学校施設の活用について

① 市では学校再編により用途廃止した学校施設で、地元から活用提案のない4施設について民間活用に向けたサウンディング型市場調査をされ、1月17日の全員協議会でその結果を報告された。これについて以下伺います。

ア サウンディング型市場調査とはどういうものか伺います。

イ どういう目的でこの調査を実施されたか伺います。

- ウ 今回調査された廃校の4校、すなわち旧光中学校、旧佐香小学校、旧日御碕小学校、旧田儀小学校は、いずれも過疎・高齢化が進み、交通機関の便数も少ない地域に立地し、また地域住民の多くの方に馴染みがあり、集い、軽スポーツや生涯学習を行う身近なところであると考えます。体育館とか一部教室は存続し、活用されるべきと考えますが、この点についての見解を伺います。
- エ 令和2年の2月以降に実施事業者を公募するスケジュールのようではありますが、地域と十分に協議されるべきと考えますがこれについて伺います。

質問者	17 西村 亮
質問事項・質問内容	
(1) 少子化・定住・人口減少等施策の課題を伺う	
<ul style="list-style-type: none"> ① 少子化対策・子育て環境は充実しているか考えるか伺う。 ② 定住対策の現状と今後の課題、取り組みを問う。 ③ 他の自治体の基準と比較して市の施策は総合的に判断して優れているのか。見解は。 ④ 地域の宝である子供を育てる環境の整備・拡充が必要不可欠と考えるが所見を伺う。 ⑤ 特に医療、教育環境の拡充と考えるが如何か。 ⑥ 若者が市に魅力を感じる施策が必要不可欠と思うが見解は。 ⑦ 予算等傾斜配分して充実、拡充すべきと考えるが所見は。 	
(2) 市道等における支障木の伐採、撤去の現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"> ① 市道幹線、支線の支障木が年々繁茂し、増加して、交通の妨げになっている場所が見受けられるが現状を伺う。 ② 強風による倒木や枝が折れ落下する状況があり、特に枯木は危険な現状があり、早急な対応が必要不可欠と思うが所見を伺う。 ③ 地域住民の皆様方の要望に充分応えられているのか伺う。 ④ 地域において支障木を積極的に撤去されている皆様方もおられるが支援策はあるのか伺う。 	

質問者	13 寺本 淳一
質問事項・質問内容	
(1) ふるさと納税について	
<p>① ふるさと納税の議論は平成19年5月に菅総務大臣の問題提起から始まり、平成21年4月に施行されました。開始時の平成21年度は全体で72億円だった納税額が、平成30年度では3,481億円まで拡大しています。また平成30年度にふるさと納税を行った人は約300万人で、それに対して個人住民税を支払っている人口が約5,500万人おられることを考えると、今後の利用者はまだまだ拡大傾向にあると言えます。そこでふるさと納税について伺います。</p> <p>ア 出雲市へのふるさと納税額の推移は。(令和元年度の見込みが分かれば含めて)</p> <p>イ ふるさと納税をきっかけに出雲市を訪れた人又は移住された人は。</p> <p>ウ アの結果をどう分析されているのか、また納税額拡大を目指す対策は。</p> <p>エ 移住へのきっかけ作りとして、空き家を活用した宿泊サービスなどを返礼品とする考えは。</p> <p>オ 平成30年に総務省の財政支援措置として提案された「ふるさと納税を活用した地域における起業支援及び地域への移住・定住の推進について」の中にある、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用した「ふるさと移住交流促進プロジェクト」とはどのようなものか、またそれを活用するためにはどのような課題があるのか伺います。</p>	
(2) 旧高松コミュニティセンターの活用について	
<p>① 平成30年3月に新高松コミュニティセンターが竣工しました。ここまでの2年間で旧高松コミュニティセンターの活用について地元でも議論はしましたが、結論は出ずに現在を迎えています。出雲市としての今後の方針とスケジュールを伺います。</p>	

質問者	27 福代秀洋
質問事項・質問内容	
(1) 地縁の重要性について	
<p>① 自治会加入率の推移 ア 出雲市の自治会加入率、世帯数の推移をお伺いします。</p> <p>② 自治会などが果たしている役割 ア 自治会等が果たしている役割とこれに対する所感をお伺いします。 イ 自治会等の活動を金銭的に評価すると、市全体でどの程度になると想定されるのかをお伺いします。</p> <p>③ 出雲市の施策 ア 自治会等の維持・応援のため出雲市が実施している施策と歳出額をお伺いします。</p> <p>④ 地縁の望ましい姿 ア 出雲市における地縁の望ましい姿をどのようにお考えなのか、またそのために必要な自治会の加入率、維持すべきラインはどの程度なのかをお伺いします。 イ その実現のために、今後どのような施策が必要とお考えかお伺いします。</p>	

質問者	6 児 玉 俊 雄
質問事項・質問内容	
(1) コミュニティセンターの人材確保について	
<ul style="list-style-type: none"> ① コミュニティセンター職員の雇用形態及びその経緯とメリットを伺う。 ② 今後の人材確保策について伺う。 <ul style="list-style-type: none"> ア 職員の給与水準に関わる市の考え方はどうか。 イ 職員の定年延長に関わる市の考え方はどうか。 ③ 職員の選考方法を再検討する考えはないか伺う。 	
(2) リサイクル団体回収補助金の廃止について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 古紙、空き缶、リターナブル瓶の近年の回収量、回収率の動向を伺う。 ② リサイクル団体回収補助金の交付状況と登録団体の活動状況を伺う。 ③ リサイクル団体回収補助金の廃止について市の考え方を伺う。 <ul style="list-style-type: none"> ア 市民の資源リサイクルへの意識を高めるといふ所期の目的は達成されたと考えているのか。 イ 民間業者による回収量はその取引価格に左右されやすいと考えるが、近年の価格の動向と今後の見通しをどのように考えているのか。 ④ 今後の回収量、回収率のアップと回収経費の削減に係る市の考え方を伺う。 	

質問者	24 板倉 一郎
質問事項・質問内容	
(1) 学校教育について	
<p>① 施政方針のなかにある学校教育について次の点を伺う。</p> <p>ア 確かな学力定着のため、教員の授業力向上についての取り組みについて伺う。</p> <p>イ 新学習指導要領で求められる学びの実現とは何か伺う。</p> <p>ウ 不登校・いじめ等への対策や特別支援教育のきめ細やかな支援とは、どのようなものか伺う。</p> <p>エ 児童生徒の人間関係づくりや自尊感情の育成を目的とした取り組みの拡大とは、どのようなものか伺う。</p> <p>オ 教育長の目指す、学校教育における人材育成の考えについて伺う。</p>	
(2) 自治会の支援について	
<p>① 自治会活動の目的は、近所に住む人たちで自主的に運営され、日頃から親睦と交流を通じて連帯感を深め、気軽に付き合い、日常生活に必要な情報交換や地域の課題をみんなで協力して解決し、ふれあいのある快適なまちづくりを目指し活動していくことです。すばらしい目的ですが、現状では住民の高齢化や未加入者の増加などにより、自治会の本来の活動が出来ない状況になろうとしています。そこで、次の点を伺います。</p> <p>ア 加入率の現状および推移について伺う。</p> <p>イ 加入率の低下の原因とその対策について、どのように考えているのか伺う。</p> <p>ウ 原因の一つとして、役員就任の負担感や金銭的な負担感、そして加入者と未加入者の間の不公平感がある。そのことについて市はどのように把握しているのか伺う。</p> <p>エ 自治会未加入者の大半は、アパート入居者と分譲宅地による複数世帯で自治会が結成されないことであると考えます。特に持ち家の方は、長期間の定住の意思がある住民でありターゲットとすべきと考えます。そこで、比較的新しい住宅団地や分譲宅地の自治会の加入率は、どのようになっているのか、また自治会結成への取り組みについて伺う。</p> <p>オ 令和元年度6月議会の保科議員の質問の中で、地域の実情に応じた自治会加入の促進のあり方をそれぞれの地域のみなさんと一緒に考えていきたいと答弁されています。その後の取り組みについて伺う。</p>	

質問者	2 玉 木 満
質問事項・質問内容	
(1) 救急出場の状況について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 救急出場件数の推移について <ul style="list-style-type: none"> ア 救急出場体制について イ 過去5年間の救急出場件数の推移及び考察 ウ 今後の出場件数の動向について ② 消防署別の救急出場件数について <ul style="list-style-type: none"> ア 消防署別の救急出場件数について イ 救急隊毎の救急出場件数について ウ 災害重複等により最寄りの署以外から救急出場した件数 	